

1945年8月6日。世界が決して忘れてはならない日。一発の原子爆弾によって、多くの人々の尊い命、美しい自然、広島の人々の大切なものが奪われました。居場所の分からなくなつた家族を探して何人の人々があの焼け野原を歩いたことでしょう。

私は今回、広島平和記念式典に参加させて頂いて、戦争の悲惨さや恐ろしさを感じると共に、今、自分が生かされていること、ありがたさを心の底から感じました。

資料館や原爆ドームを訪れた際には、民を殺し合い大切なものを奪う「戦争」という事実を自分の目で見て、感じることで、きました。これからの未来で、戦争の「体験」は絶対に必要ありません。しかし、その戦争という「事実」を正しく知ることが必要です。私は実際にこの事実に触れた時、言葉にはできないう、なんとも言えない感覚に襲われました。自分が想像していたよりも遙かに恐ろしく、悲惨であつた戦争。

第一中学校 三年

そんな恐ろしい体験をした広島  
の願いや想いを、全てではないけれど、  
実際に広島に足踏み入れること  
で感じることができたのではない  
かと思います。

そして、このク2年前の事実や  
広島への願いや想いを未来へ繋ぐ  
ことは、私たちの使命であり、  
それは、これからの世界に平和  
をもたらす、大きく、大切なもの  
であると思います。これから  
の更なる世界平和を願い、その  
ために自分ができる事を日々探  
求していきこうと思